

# ボナンタゴン

アピカホールから  
あなたに

Vol.66

2012.10月-12月



ウィーン・ピアノ四重奏団

第120回  
しばぎくろコンサート

ウィーン・ピアノ四重奏団

十二月二十日開催

■寄稿 伊東信宏

第121回  
しばぎくろコンサート  
ピアノリスト

弘中孝となかまたち

二月二日開催

弦楽アンサンブル

教室に寄せて

■寄稿 藤井允人

うかわ先生の  
おんがく談義

音楽の話・輪・和・Wa  
音楽と私

西脇市立音楽ホール

Apika  
アピカホール

11月20日(火)

第120回しばざくらコンサート

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のメンバーによる

## ウィーン・ピアノ四重奏団

～ドゥセック、そしてウィーン・ピアノ四重奏団～

大阪大学教授（音楽学） 伊東 信宏

ヨハン・ラディスラウス・ドゥセック（チェコ式の表記ではヤン・ラディスラフ・ドゥシーク）という作曲家は、1760年にボヘミア（現在のチェコ）のチャスラフという町に生まれています。世代的にはモーツァルトとベートーヴェンの間になりますが、彼らほど有名ではないので、音楽史的にはウィーン古典派の時代に生きて、それほど革新的ではないものの色彩的な音楽を書いた周辺の作曲家、というような扱いになってしまうことも多いようです。ですが、彼の伝記を辿っていくと実に国際的に活躍した作曲家であり、波瀾万丈でカラフルな生涯を送った人だ、ということがわかります。

彼はすでに少年の頃から才能を示していたようですが、最初に音楽家として本格的成功を取めたのは、フランス革命直前、マリー・アントワネットのパリ宮廷においてでした。彼は優秀な鍵盤楽器奏者、そして社交的な魅力を持った若者として、ルイ16世のお気に入りとなったのですが、フランス革命で市民達が蜂起すると彼は当然きわめて危うい立場に立ちます。かくして革命と同時にパリを脱出し、ロンドンに辿り着きます。

ロンドンでは近代的なコンサートライフの最初の中心の一つであり、ドゥセックの才能はここでもたちまち注目を集めます。当時のロンドンの音楽的な中心の一つが、ソロモン氏によるコンサートシリーズで、ハイドンはこのシリーズに招かれてエステルハージ宮廷からロンドンまで出て来るわけですが、そのハ

イドンのコンサートでドゥセックは何度か演奏者を務めたようです。また、当時人気のあるハープ奏者だったソフィア・コリと結婚してよいよ彼の人生は華やかさを増すのですが、同時にこれは新たな転落のきっかけともなります。ソフィアの父は出版業を営んでおり、ドゥセックはこの出版社の共同経営者になるのです。ですが、やがて経営は悪化して1899年に破産してしまい、彼は債権者たちから逃れるため、ロンドンから逃亡してしまいます。奥さんと娘を残し、彼は二度とここには帰ってきませんでした。

1800年初頭には彼はハンブルクに居たことがわかっています。そこでやはり演奏活動を行い、またロンドン製のピアノ（これはウィーンを中心として作られていた大陸側の楽器よりも豊かな響きを持つ、当時最先端の楽器でした）を広めてまわっていたようです。そしてハンブルクからさらにベルリンに向かい、彼はそこで音楽にただならぬ見識を持っていたプロイセン王国のルイ・フェルディナントの知遇を得て、1804年からその宮廷楽長を務めました。フェルディナントは自ら楽器を演奏するだけでなく（ベートーヴェンのピアノ協奏曲第3番は彼に捧げられています）、作曲もたしなんだので、ドゥセックはその助言も行ったようです。フェルディナントはドゥセックを片時も手放さず、戦場への遠征にも同行させるほどでしたが、この関係も1806年ザールフェルトの戦い（プロイセンとナポレオン軍との戦争）でフェルディナントが亡く

なったことで終わりを迎えました。

この後、ドゥセックはなんとこの敵方のナポレオンの経済相だったタレイランに仕えることになります。ここで彼は手厚い保護を受けて充実した作曲家生活を送れるはずだったのですが、次第にアルコールと肥満が彼の健康をむしばみ、ついに1812年パリでその生涯を閉じました。

今年2012年は、つまり彼の没後200年にあたります。今回の演奏会でドゥセックの作品がとりあげられる理由の一端はそこにある、といってもいいかもしれません。彼の生涯を振り返ってみれば、彼が当時のヨーロッパの文化的中心を渡り歩き、どこにあってもスポットライトを浴び続けた才能であった、ということがおわかりいただけるでしょう。マリー・アントワネットのヴェルサイユ、ロンドンでのハイドンとの共演、プロイセンの楽長、そしてナポレオン時代のパリ。その輝くばかりの経歴は、彼が音楽的に傑出していたこと、そしてきわめて柔軟であったことを示しているように思われます。

事実、演奏会でお聴きいただくピアノ四重奏曲は、そのような彼の才能をよく示しています。3つの楽章から成りますが、古典派の音楽を踏み越えてしまうような大胆な音楽の進行、清潔で確固とした輪郭はとても印象的です。たとえば第3楽章ロンドに注目してみてください。落ち着いたある旋律ですがどこか少し憂いを感じさせる主題、この憂いを曲の進行のなかで孤立させない感覚の鋭さ、そして的確に4つの楽器を活かす技術の確かさ・・・、この音楽を聴けば、ドゥセックがあれほど愛された理由がわかるような気がします。

\* \* \*

さて、今回この作品を演奏するのはアピカホールの聴衆にはおなじみとも言えるウィー

ン・ピアノ四重奏団です。中心となっているのはデンマーク生まれのヨアゲン・フォウグ氏（チェロ）と日本生まれのフォウグ・浦田陽子さん（ピアノ）のご夫妻ですが、ヨアゲン・フォウグ氏は、ヴァイオリンのエーリッヒ・ビンダー氏、ヴィオラのロバート・パウアーシュタッター氏とともに長年ウィーン・フィルのメンバーであり、まさにウィーン音楽の伝統を引き継いでいる存在、といっても良いと思います。ウィーンという都市は、そもそも純粹培養的な閉じた伝統の街と誤解されがちですが、本来ハプスブルクという多民族帝国の首都であり、（ドゥセックのような）ボヘミア人も、ハンガリー人も、そればかりかカルパチア山脈を超えてウクライナからも、イタリアからも、様々な言語、宗教、習俗を持つ人々を受け入れ、どんどん自分の中に溶かし込みながら発展してきた雑種文化の街でした。ウィーン音楽も、例えてみれば、口当たりの良い芳香の奥にエキゾチックな香りや苦みを隠した深みのある酒のようなものだ、と言えるかもしれません。

だから、ドゥセックの作品をウィーン・ピアノ四重奏団の演奏で聴く、というのは、おそらく彼の音楽をととてもスリリングなものとして体験することになるはずだ、と期待して良いと思います。

### プログラム

ドゥセック：ピアノ四重奏曲 変ホ長調 op.56

R.シュトラウス：小品 AV.182(愛の歌)

ブラームス：ピアノ四重奏曲 第2番 1長調 op.26

# ピアニスト 弘中孝となかまたち

～弘中 孝(ピアノ) 久保陽子(ヴァイオリン) 岩崎 洸(チェロ)～

日本を代表する演奏家の「“いいの音”を感じてもらいたい!」という思いのこもった特別プログラムをアピカホールでお楽しみください。

## プログラム

第1部は、お話しを交えながら、ヴァイオリン、チェロ、ピアノのソロ演奏。

- J.S.バッハ：無伴奏ヴァイオリン・ソナタ 第1番 ト短調 BWV.1001
- 黛 敏郎：無伴奏チェロのためのBUNRAKU
- フォーレ：ノクターン 第6番 op.63
- ショパン：バラード 第1番 ト短調 op.23

第2部は、3つの楽器の豊かな旋律によるトリオ演奏。

- ベートーヴェン：ピアノ三重奏曲 第7番 変ロ長調「大公」 op.97



と き 平成25年2月2日(土) 午後3時(開演)  
 入場料 一般/3,000円 高校生以下/1,500円 全席自由  
 チケット発売開始/10月20日(土)



弘中 孝



久保陽子



岩崎 洸

# 弦楽アンサンブル教室によせて

指導者 藤井 允人

(元大阪フィルハーモニー交響楽団コンサートマスター)

40年近くにわたり、オーケストラ・プレイヤーとしてヴァイオリンを演奏してきましたが、現役時代は子ども達への音楽教育、育成活動については、あまり関心を持つことはありませんでした。教えるのが苦手だと思いつけていたからかもしれません。

大阪フィルハーモニー交響楽団を退職後、ご縁があり滋賀県栗東市のさくらジュニアオーケストラ・アカデミーの校長として子どもの音楽教育と関わることになりました。そこで、私の意識ががらっと変わることになります。

昔からよく言われますが「教えるとは自らが学ぶこと」ということを身をもって知りました。「なんとなくこんな感じで」と、自分の感覚や考えを押しつけるのではなく、作曲家の意図するところが何であるかを論理的に子ども達に知ってもらおう。そして、そこから自主的に音楽を表現させるには、なにより自らの勉強が必要となります。そうして「楽譜を読む」というところから共に学び生まれた

音楽は、子ども達の言葉となり、多くの人に伝わることを実感してきました。

私は、3年前からここアピカホールで毎年3月に開講されている弦楽合奏の指導をさせていただいております。この度、その弦楽合奏のクラスが継続的に開設されることになり、大変嬉しく思っています。継続するというのは素晴らしいことです。クラシック音楽、あるいはそれに限らず何かを極めるといえるのは大変むずかしいことです。大人の私達が一生かかっても「納得」に到達するのはむずかしいでしょう。しかし、継続して取り組むなかで、必ずや普段の生活にはない新しい世界が発見できることと信じています。多くの子ども達が楽器をもってこのホールに集い、みんなで合奏を楽しむ。その中で本当の意味での音楽の楽しみを発見してくれることと思います。

来年2月に開催予定のミニコンサートでは、子ども達の演奏を通じ、このことの意味を感じ取っていただけるに違いありません。



8月2日・3日・4日に行われた弦楽アンサンブル教室の様子

※募集についてはP8をご覧ください。



## 7月13日、14日「和楽器オーケストラ あいおい」の演奏を聴いて おどろおどろしき〈怨念の世界〉の音

— 戸川藍山さんの尺八と長須与佳さんの薩摩琵琶 —

私は、音楽学、その中でもとりわけ西洋音楽史を専攻しております。ふだんは、やれシューベルトだ、やれモーツァルトなどと、西洋の音楽のことばかり論じています。《灯台下暗し》というたとえの通り、自分の国の音楽のことについてはほとんど何も知らないという、お恥ずかしい状態で長年過ごしてきました。

そのような私でも、これまで、ときたま耳にする尺八の音とか琵琶の音には、何故か強く惹きつけられるところがありました。何故そうなのか、あまり深く考えないまま今日に至ってしまったのですが、このたび、7月13日と14日に、アピカホールで「和楽器オーケストラあいおい」の演奏会が開かれ、その中で、戸川藍山さんの尺八と長須与佳さんの薩摩琵琶に接するに及んで、長年抱いてきた疑問の答えがやっと明確になってきたように思われたのです。私が、尺八や琵琶に惹きつけられる理由——それは、この2つの楽器が、この世に生きる人間、そしてまた、この世を去ってあの世へと旅立った人間の〈怨念〉を表すことのできる、他とは異なる特殊な楽器だということに、お二人の演奏が気づかせてくれたのです。

かつて、NHKテレビ「あなたのメロディー」の審査員として一世を風靡した作曲家の高木東六さんは、日本の子もり歌について、次のように指摘されています。

「日本の子もり歌のほとんどは赤ちゃんへ寄せる愛情が直接の動機になってはお

りません。(中略)母親の心の歌ではなくて、実は子もりの娘が自分の運命を諦めるための歌だったのです。(中略)彼女らの作ったこの子もり歌には、悲しい運命や諦めや卑屈がひそんで、その心がいんいんめつめつと響いているのです。」(註1)

当日の曲目、「旅人より 日本民謡ラプソディ」の中で、戸川さんが尺八のソロで「五木の子守唄」を吹いていました。彼の気迫のこもった痛切な表現を通して、彼女らの自分の運命を呪う〈怨念〉の叫びが、まざまざと浮かび上がってきていたように思います。

NHK大河ドラマ『平清盛』の《平家納経》の回(7月29日放送)の中で、清盛が厳島神社に33巻の経典を納経する趣意を次のように述べているシーンがありました。

「これまで無念にも命を落とした者たちの冥福を祈り、一門に限らず、この新しき世を迎えるまでに志なかばにして失われた全ての魂を鎮めたい」

『平家物語』の中には、このような無念の想いを抱いて志なかばでこの世を去っていった無数の人たちの〈怨念〉、そしてまた、建礼門院徳子に代表される平家と源氏の戦いでこの世の地獄を見てきた人たちの〈怨念〉が渦巻いています。当日のプログラム後半の冒頭、《楽器紹介コーナー》の中で、長須さんが、『平家物語』冒頭の有名な「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響あり」の部分で琵琶を爪弾きながら演じてくださいましたが、その迫力たるや聴く者の度肝を抜くに十分なものがあ

りました。琵琶の精妙でありながら力強い音色と相まって、この世を越えたあの世の世界が立ち現われてくるかのようにでした。長須さんの琵琶であれば、『平家物語』の〈怨念の世界〉を余すところなく表現できるのではないかと……もっともっと続きが聴きたいという思いを抑えることができませんでした。

私が尊敬するドイツの音楽学者で音楽評論家でもあったアルフレート・アインシュタイン(1880~1952 相対性理論で有名な物理学者の1歳年下のいとこ)は、その著書の中で次のように述べています。

「人間性の限界のほとりを動きまわることなしには、なんびとも偉大ではありえない。(中略)《天才と狂気》の近縁に関する理論は、すべての偉大な人々、したがってまた偉大な音楽家も、たんなる才能が思い及ばないような問題にふれるというかぎり、また、彼らが深淵のほとりに近づくというかぎり、また、彼らの快活さも暗い根底に基づいているというかぎり、真実である。」(註2)

お二人は、〈怨念の世界〉という人間の心の深淵をめぐりだしてきて、きれいごとではない切実な表現で、それを示してくださいました。ただただ、驚くべき才能であるとしか言いがありません。

(シリーズ『オーストリア音楽の特質』は、今回お休みさせていただきます。)

註(1) 高木東六  
『ぼくの音楽論  
—とくにお母さんのために—』  
日本放送出版協会 208ページ  
(2) アインシュタイン(浅井真男訳)  
『音楽における偉大さ』  
白水社 183~184ページ

元同志社大学文学部講師(音楽学) 鶴川 真

## 西脇ロイヤルホテル

Daiwa House Group®

兵庫県西脇市西脇 991 番地 〒677-0015  
Tel 0795-23-2000 Fax 0795-23-8604

**織乃里**  
和食処 織乃里  
【昼】11:30~  
オーダーストップ 13:30  
【夜】17:30~  
オーダーストップ 21:00

**ラフィネ**  
RAFFINE  
レストラン ラフィネ  
【昼】11:30~15:00  
(最終入店14:00)  
【夜】17:30~21:00  
(最終入店20:00)



## 参加者募集のお知らせ

お問い合わせ、お申し込みはアピカホールまで。  
(TEL.0795-23-9000)

### 「アピカホール 児童合唱団」

対象：小学1年生～6年生  
練習：月曜日/月3回 18:00～19:00  
参加費：2,000円/月  
指導者：百合花先生  
伴奏ピアニスト：秋山麻子先生  
内容：ソルフェージュ（音符の書き方、読み方、視唱、聴音などの音楽基礎）を取り入れながら、呼吸法や発声法を学びます。

### 「アピカホール 混声合唱団」

～混声 Choro アピカ～  
対象：中学1年生～一般  
練習：月曜日/月3回 19:30～21:00  
参加費：3,000円/月  
指導者：百合花先生  
伴奏ピアニスト：秋山麻子先生  
内容：毎回、百合花先生の指導のもと、呼吸法と発声法の基礎練習から始まり、ホールの響きを楽しみながら練習します。

### 「アピカホール 弦楽アンサンブル教室」

～ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロ・コントラバス～

対象：小学4年生～高校生（弦楽器経験が半年以上ある方）  
練習：週末/月2回～4回  
参加費：3,000円/月  
指導者：藤井允人先生（元大阪フィルハーモニー交響楽団コンサートマスター）  
西山枝里先生（西脇小学校オーケストラ部出身）  
内容：楽譜の読み方（作曲家が意図していることや音の並びによる法則）や演奏法をプロの奏者から直接学び、合奏を体験する中で、音楽の楽しみを発見します。

## 8月25日(土) 第16回 「リトルピアニストの木っきなコンサート」

60組のリトルピアニストたちが、日頃の練習の成果を発表しました。

午前の部



午後の部



このコンサートは、アピカホールにあるスタインウェイピアノを広く皆さんに弾いていただきたいという願いからはじまりました。“演奏家の卵”たちがこれからも音楽に興味を持ち続け、活躍してくれることを期待し、

また自分の演奏だけでなく、他の出演者の演奏を聴くマナーを身につけることもねらいとして開催しています。

次回募集 2013年1月～3月(予定)

## 出演者募集のお知らせ

### 第22回 「アピカ・フレッシュコンサート」

地元出身で音楽系大学を卒業される方々の今後の活躍を期待し開催します。

募集期間 2012年12月～2013年1月(予定)

### 第5回 「弘中孝と子どもによるピアノ・デュオ・コンサート」

日本を代表するピアニスト弘中孝先生とコンサートで共演できる！  
夢のような企画を三年に一度開催しています。

募集期間 2012年12月～2013年3月(予定)

この企画の大きな狙いは「音楽を楽しんでもらう」ことです。

一人で演奏するよりも、二人でアンサンブルをした方が楽しいに決まっています。先生と共に演奏し、より幅のある音楽が作れます。自分が今まで感じなかった音楽が共演者の先

生によって引き出されます。“音楽ってこんなに楽しいんだ”と実感して欲しい。そして人と協調して作る楽しさ、素晴らしさを、肌で体験して欲しいと願っています。

(弘中 孝 談)

開催について詳細が決定次第、ホームページなどでお知らせします。

# KOBE STYLE

Kitchen & Reform

www.kobe-style.co.jp

〒658-0032

神戸市東灘区向洋町中6-9 TEL:078-857-8424  
神戸ファッションマート10F FAX:078-857-8425

## おとなのコース MUSIC SCHOOL

バイオリンコース



ピアノコース



生徒  
募集中

無料体験受付中

ヨシダ楽器 西脇市西脇983-8 (みなと銀行前)  
Tel(0795)22-2322 Fax(0795)23-4437

総合建設業 一級建築士事務所  
国土交通大臣認定鋼構造物製作工場  
あんしん住宅瑕疵保険届出事業者



WAIKI CONSTRUCTION CO.,LTD.

## 和以貴建設 株式会社

☎677-0018 西脇市富田町36  
電話 0795-22-5651(代)

## 思った時がはじめドキ!

ヤマハ 秋の体験レッスン受付中  
音楽教室&英語教室  
(個人レッスンもあるよ!!)

ピアノ・エレクトーン・ギター  
バイオリン・フルート・サクソフーン 等

ピアノ(森川和子先生のマスターコース有)

お問い合わせ  
ヤマハ特約店 (株)北条楽器  
加西市北条町横尾183-5 ☎0790-42-0697

高校の時、市民会館でフィガロの結婚を聴いたこと。立川澄人と二期会に群馬フィルだったか。生まれて初めての経験。同じ頃、初めて買ったレコードがベートーベンの5番(運命)と8番。今でも何故か8番を聴くとそれを思い出す、5番でないのがおかしい。何も分からずにいいと思ったのがパリ音楽院のアルルの女。随分後で知ったが名盤だった。レコードは高価だったのでFM中心の音楽生活に。今でも、どの部屋で

もそれなりの音でFMは聴ける、音楽の宝庫だと思う。目覚ましがNHKのFMで時間的にバロックがかかる。仕事中は手が止まる時がありちょっとまずいことも。音質はCDに負けるけど幅広い。アジア、アフリカの、中南米のと普段聴けないものや浪曲、詩吟まで、すごいね。絵付けをしても口をひいても何か流れて、耳学問で得る知識も音楽を知る上で助けになったりする。私にはきくと第2の空気に違いがない。たまにお気に入りのCDも。でも、生演奏にはかなわない、エネルギーで心のこもった演奏はすばらしい。特に何が好きかと聞かれたら弦のこすれる音、

あのギョギョ。もちろんピアノも管も太鼓も好きだけど。田舎に住んでると、音楽会に出かけるにはまさに半日仕事。西脇に音楽ホールが出来ると聞いて嬉しかった。生で聴ける機会が増えると。席数が少ないので演奏者との距離が近い。家からでも5分、直前に出ても間に合う。良い企画は当然として「田舎だけどここのホールはいい意味で緊張するね。」と、演奏者に思わせるような雰囲気作りが出来れば最高だと思う。でもこれは時間掛けて作る聴き手の責任。この原稿も音楽聴きながら、曲名はわからんけど。 (西脇市下戸田 陶芸家)

**編集後記**

音楽ってすごいなあ。あらゆる時代のあらゆる国のあらゆるジャンルの音楽を聴けるのはしあわせですね。今、どんな音楽も選択可能な恵まれた時代にいますので、いろいろな音楽を聴いて、自分の大好きな音楽を見つけてみるのも、おもしろいのではないかと思います。一番記憶に新しいところで、和楽器オーケストラを聴いて、日本の心を再確認しました。西脇市に住む方は近くでいろんなコンサートがありますので、チェックして足を運んでもらえたらうれしいです。生で聴いたら、右脳にもピンピンきて感動が…ストレス解消にもなり、若返り間違いなし！音楽の効果ってすごいなあ。 (Green)

お知らせ アピカクイズは、諸般の事情により中止させていただきます。ご了承ください。(アピカクイズ Vol.65の答え①)

**音楽の話・輪・利・Wa**

**音楽と私**

石井 宏志

何時の頃から、音楽を聴くようになった。

鮮明な記憶は

●第9回全国公募  
「西脇市サムホール大賞展」  
10月14日(日)～11月11日(日)



大賞「4×15mm」 出井 伸明

応募総数1,712点の中から選ばれた、大賞、準大賞、審査員賞、優秀賞、入選の計211点のサムホール(22.7×15.8cm)作品を展示いたします。期間中、別館アトリエにおいて第1回から第8回までのサムホール大賞展の受賞作品を展示いたします。

最終日午後3時まで  
※サムホール大賞展 入館無料

<http://www.nishiwaki-cs.or.jp/okanoyama-museum/>  
ホームページにも掲載していますので是非ご覧ください。ブログ「美術館日記」も訪問ください。

西脇市  
岡之山美術館  
TEL.0795-23-6223

●第57回企画 「横尾忠則展」(仮題)  
11月18日(日)～平成25年3月31日(日)

開館時間 午前10時～午後5時(入館4時30分まで)  
入館料 大人310円(260円)高・大学生210円(160円)  
小・中学生110円(80円)( )内20名以上団体割引料金  
休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)・祝日の翌日  
12月29日～1月3日

**アトリエシリーズ**

●アトリエ個展シリーズ

- VOL.1 ●11月20日(火)～12月8日(土)  
藤本 イサム展 立体
  - VOL.2 ●12月9日(日)～12月28日(金)  
今中 敏数展 日本画
  - VOL.3 ●平成25年1月4日(金)～1月26日(土)  
井上 祥子展 洋画
- アトリエシリーズは無料

西脇市民会館  
TEL.0795-22-5715  
休館日 火曜日(祝日の場合は翌日)

**落語「桂南光 独演会」**

演目は当日のお楽しみ!

とき **10月27日(土)**  
午後2時開演(午後1時30分開場)

ところ 市民会館 大ホール **全席自由**

出演者 桂南光・桂米平・桂歌之助・桂二乗

入場料 一般 2,000円 高校生以下 1,000円  
ペア券 3,500円 (当日各500円増)



※ホームページにも掲載していますので是非ご覧ください。  
<http://www.nishiwaki-cs.or.jp/shiminkaikan/> E-mail: shiminkaikan@ever.ocn.ne.jp

# アピカホール 催しガイド 10月～1月

休館日：毎週水曜日(祝日の場合翌日)12/29～1/3

月/日(曜日)	催物内容	時間	入場料等	主催・問合せ	特記事項
10/27(土)	落語「桂 南光 独演会」	会場：西脇市民会館 14：00～	全席自由 一般 2,000円 ペア券 3,500円 高校生以下 1,000円 (当日各500円増)	市民企画委員会「0」 西脇市民会館 ☎0795-22-5715	P11
11/9(金)	みなと銀行 みなと会 播丹支部 秋季支部会	15：00～	関係者	みなと銀行 三木支店 ☎0794-82-0980	
11/10(土)	西脇市民合唱団 第63回 定期演奏会	18：30～	500円	西脇市民合唱団 細田 重康 ☎0795-22-4567	
11/13(火)	納税表彰式	10：30～	関係者	公益社団法人 西脇納税協会 ☎0795-22-2842	
11/18(日)	コーラスとマンドリンのジョイントコンサート	14：00～	無料	ふろっぐえこうず 代表 松浦 久代	
11/20(火)	第120回 しぼざくらコンサート ウィーン・フィルハーモニー 管弦楽団のメンバーによる 「ウィーン・ピアノ四重奏団」	19:00～	一般 3,000円 高校生以下 1,500円	アピカホール ☎0795-23-9000	P2-3
11/23(金・祝)	第4回 市民フォーラム 主催：地域医療検討会	13：00～	無料	西脇市多可郡医師会 ☎0795-23-3402 西脇市立西脇病院 ☎0795-22-0111	
11/25(日)	ヤマハ英語教室 発表会	①10：30～ ②13：30～ ③16：00～	無料	㈱北条楽器 ☎0790-42-0697	
12/2(日)	ヤマハ ヤングピアニストコンサート 北中播地区大会	①10：00～ ②14：00～ ③16：00～	無料	㈱北条楽器 ☎0790-42-0697	
12/15(土)	くすのき リトルピアノコンサート	13：30～	関係者	楠 宮子 ☎0795-48-9332	
12/16(日)	ベル フェスタ in アピカ	13：30～	500円	ティンカーベル 代表 熊原 幹恵 ☎0795-23-1671	
12/22(土)	第18回 クリスマスコンサート	12：00～	関係者	服部 文子 ☎0795-42-1530	
1/20(日)	合同発表会	未定	関係者	㈱北条楽器 ☎0790-42-0697	
1/26(土)	第15回 「アピカ・アンサンブルコンサート」	13:30～ (予定)	無料	アピカホール ☎0795-23-9000	

- \*主催者の都合により変更になる場合があります。内容についてのご質問は、各主催者までお問い合わせください。
- \*アピカホール主催の有料コンサートにご来場のおお客様に限り、アピカ地下駐車場の3時間無料駐車サービス券をお渡します。

■編集：ボナンタゴン編集委員会  
 ■発行：西脇市立音楽ホール「アピカホール」  
 〒677-0015 兵庫県西脇市西脇991  
 TEL(0795)23-9000 FAX(0795)23-9031  
<http://www.nishiwaki-cs.or.jp/apikahall/>  
 E-mail: apikahall@ever.ocn.ne.jp

ボナンタゴン：こんにちは  
(エスペラント語)

このガイドは2012年9月1日現在の資料を元に編集しており、内容は変更される場合があります。無断での転載を禁じます。